

提出日: 2024 年 6 月 3 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
文学部	准教授	中野学而

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。
	1. 2023年4月 1日 ～ 2024年3月31日 2. 2023年9月 1日 ～ 2024年8月31日 3. 2023年4月 1日 ～ 2023年9月20日 4. 2023年9月21日 ～ 2024年3月31日 1
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。 海外活動補助費の支給を予定いただいていたが、母親の介護に妻と長男の体調不良も重なる状態が生じたため、最終的に海外への渡航は断念し、基本的に自宅に滞在することで研究活動を行った。改めて、審議にお骨折りいただいた皆さまに心よりのお詫びを申し上げますとともに、事情をご理解賜りますようお願い申し上げます。 主に20世紀アメリカ作家ウィリアム・フォークナーの「後期三部作」と呼ばれる作品群の読解を通じ、フォークナーにとっての「家庭」の意味を探究した。その際、金沢大学図書館訪問を含め、いわゆるアメリカ南部の文学研究分野の文献みならず、精神医学や心理学の領域、フェミニズム、ドメスティック・バイオレンス研究、ハラスメント研究、トラウマ研究の分野の知見を渉猟し、人間の心が傷を負い、それが治癒するメカニズムとその意味を可能な限り幅広く探究することとなった。また、それと並行し、日本の作家やミュージシャン、主に大江健三郎、中上健次、村上春樹の文学作品、それからいわゆる歌謡曲、ポップス、ロック、クラシック、ジャズの様々な楽曲群の分析を通じ、フォークナーの文学環境と共通する点が多いとされることの多い日本の戦後(第二次大戦の敗戦後)社会の意味とその後のアメリカとの関係における日本人の心の傷のありかとその表象のありさまについても探究を行った(日本の作家やミュージシャンについてはそのゆかりの地を訪問した)。その比較のためにも、欧米のミュージシャン、特にビートルズとボブ・ディラン、そのルーツとなるミュージシャンの音楽についても研究を深めた。 日本アメリカ文学会の東京支部選出編集委員としては学会誌出版のための投稿論文査読、書評用の出版書籍審査に専心し、日本ウィリアム・フォークナー協会事務局幹事としては会計管理、全国大会開催や協会誌の発行作業をサポートした。
	得られた研究成果

得られた研究成果	上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。 フォークナー研究に関しては、2023年5月の英文学会全国大会シンポジウム「ドメステ
----------	--

について	「インディ再訪」への登壇において研究のひな型を形成し、それを研究促進期間中に深めて『人文研紀要』掲載用の論文にすることを狙った。最終的に3月の締め切りに間に合わせることができなかったが、現在も執筆中である。フォークナー（あるいはアメリカ作家全般）や欧米のミュージシャンと日本の作家やミュージシャンたちとの比較については明確な成果物は出ていないが、学会参加も含めて京都、北海道、宮城、石川、和歌山、愛媛、岡山、北海道と日本各地を回りそのゆかりの地を訪ねることで、日本の近代のあり方に対して様々な作家や哲学者、ミュージシャンのそれぞれの反応を確かめ、知見を深めることができた。
今後の計画について	得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。 上記の成果をふまえ、今年は2025年締め切りの「人文研紀要」、それから9月末締め切りの「文学部紀要」にフォークナーに関する論文の執筆を行いたいと考えている。また、2024年4月より雑誌『英語教育』において「洋楽名盤遺産」というタイトルで過去の欧米のミュージシャンのアルバム紹介を行っており、これを2025年4月まで行う。加えて、『西日本新聞』においても日本の戦後のポピュラーミュージックの在り方に関する記事の連載が予定されているので、その執筆も進める。 上記を中心に研究を進め、ここ2、3年をめどに、フォークナーの文学と日本の作家やミュージシャンの比較研究を通じ、人の心の傷の治癒の可能性についての単行本の執筆を目指したい。